

令和元年度  
丹波の森研究所活動報告

報告書

令和2年3月

（公財）兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所



## 目 次

はじめに

### 1 令和元年度調査研究・活動報告

- 1-1 地域課題解決に向けた調査研究……………2
- (1) 集落の再生・活性化方策の検討（報告書1参照）
  - (2) 地域再生プロジェクトチーム会議
  - (3) フェノロジーカレンダーの作成
- 1-2 地域づくり支援事業……………11
- (1) 地域づくりアドバイザー派遣
  - (2) かいばら雛めぐりコーディネート業務（報告書2参照）
  - (3) 恐竜化石フィールドミュージアム推進事業の支援

#### 【参照】

報告書1 「集落の再生・活性化方策の検討」

報告書2 「かいばら雛めぐりコーディネート業務」



## はじめに

丹波の森研究所は、「丹波の森構想」（人・自然・文化・産業の調和した丹波地域づくり）を推進するシンクタンクや支援組織をめざして、平成8年（1996年）、財団法人丹波の森協会（現、公益財団法人兵庫丹波の森協会）によって設けられました。中瀬勲所長を中心に、地域づくりに関する諸分野に関する調査研究を行ってきましたが、平成28年度をもって退任され、平成29年度は、関西学院大学の角野幸博先生を新所長に迎え、新たなスタートとなりました。

平成30年度は「丹波の森構想30周年」であり、また県政150周年となる節目の年度でした。今年度は5月1日より年号が「令和」となり、新たな丹波の森づくりに向けた年度となりました。

近年、少子高齢社会の到来とともに、将来人口予測が出され、社会情勢の大きな転換期を迎えております。そうした変化に対応すべき新たな丹波の森構想が模索されているところであります。今後丹波の森研究所としては、こうした社会的要請にこたえていくよう求められています。その意味においても、丹波の森研究所としても新たな展開を図るべきところにあります。

丹波の森研究所の主たる業務は、地域づくりにおける相談、アドバイス、情報提供、学習会などを通じた地域づくりの支援のほか、丹波の森づくりに関する調査研究、講演や報告会などを通じた啓発・普及、行政の施策・事業に関するアドバイザー協力を行うほか、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会」の調査企画部分を担っています。

事業実施に当たっては、丹波の森研究所の登録研究員11名で実施しています。

### ■丹波の森研究所 所員 （令和2年3月現在）

研究所所長	角野 幸博（丹波の森公苑長兼務）
研究所次長	大垣 至康（丹波の森協会事務局長）
主任研究員	門上 保雄
特任研究員	上甫木 昭春
登録研究員	上岡 典子
	横山 宜致
	片平 深雪
	小橋 昭彦
	出町 慎
	谷垣 友里
	門上 幸子
	垣内 敬造
	宮川 五十雄

# 1 令和元年度調査研究・活動報告

## 1-1 地域課題解決に向けた調査研究

### (1) 集落の再生・活性化方策の検討

#### 1) 課題研究（小規模集落の今後）の進め方

特任研究員 上甫木 昭春

#### ■第1段階：集落の現状の把握（1年目の調査）

○地区（小学校区）の地域特性の把握（\*研究所のカルテ、関連資料による再整理）

- ・地理的立地特性
- ・自然環境資源
- ・歴史文化資源
- ・その他観光資源の現状

○集落および地区における基礎情報の収集（\*2市、地区自治協議会への聞き取り）

##### ①人口動向の把握（集落および地区）

- ・年少人口比率、高齢人口比率の現状と変化（H20～H30）
- ・居住者属性（農業系、居住系、商業系など）

##### ②環境変容の現状

- ・空き家、放棄田畑、放棄林の現状

##### ③生活利便性の把握（集落および地区）

- ・交通手段、商業施設、病院、公共公益施設などの現状

○集落および地区における地域づくり活動の把握（\*2市、地区自治協議会への聞き取り）

- ・地域づくりの取り組み内容と実施主体の把握（集落および地区）  
安全に暮らす（防災）、楽しく暮らす（祭りやイベントなど）、  
安心して暮らす（地域福祉）、豊かに暮らす（コミュニティビジネス）など
- ・まちづくり支援活動の実施状況
- ・まちづくりに係わる人材育成状況（もりびとなど）

○事例地区を対象とした変容プロセスの把握（\*地区の活動関係者へのヒアリング）

\*丹波篠山市、丹波市から各1地区を選定

- ・事例地区および集落における人口動向の経年変化
- ・環境変容の経年変化
- ・生活利便施設の経年変化
- ・地域づくり活動の経年変化
- ・時系列での人口動向、地域づくり活動などの相互関係の把握、地域づくり活動の検証

■第2段階：集落住民の意識特性の把握（2年目の調査）

○集落における諸課題の発生状況の認識

○集落および校区における地域づくりへのニーズ（将来像）の把握

\*各集落へのアンケート調査

\*平成20年度調査結果との比較も

- ・集落における諸課題の発生状況（p4）、・空き家、放棄田畑の現状（p5）
- ・子供や孫の生活場所（p7）、・集落間連携（p9）、・⑤取り組みたい産業（p11）
- ・自治会活性化への取り組み（p14）、・住みよい環境への取り組み（p15）
- ・集落活動の実施主体（p17）、・集落活動の今後の実施主体（p19）

○第1段階から第2段階までの情報を基に、集落の類型化

\*典型的な集落および集落群を選定（たとえば下記のような将来像を想定して）

- ・地域コミュニティ再生を目指す集落：新旧住民の融合、都市住民との連携など
- ・地域福祉の充実を目指す集落：独自型、集落連携型など
- ・地域ビジネスの育成を目指す集落：農林産業、観光産業、教育・研修産業など
- ・上記の展開の中で、生物多様性の活用を探る

■第3段階：典型集落および集落群における課題の抽出と行動計画の立案（2年目後半）

○典型集落における人口動向、地域づくり活動の経年変化など、および相互関係の把握

\*集落住民へのヒアリング、丹波の「もりびと」との協働作業

○「住む続けられる集落」に向けた行動計画の立案

\*丹波の「もりびと」に加え、集落および校区の地域住民との協働作業

2) 集落および校区における基礎情報の収集

①人口動向の把握に関して（\*丹波篠山市、丹波市への依頼）

- ・集落および校区における人口、年少人口、高齢者人口（最新年とその10年前の2時期）
- ・居住者属性別の人口（農業従事者、商業従事者、その他勤労者などでの構成割合）

②環境変容に関して（\*丹波篠山市、丹波市への依頼）

- ・集落および校区における
- ・空き家件数、・放棄田畑の面積、・放棄林の面積

③生活利便施設に関して（\*丹波篠山市、丹波市への依頼）

- ・集落および校区における
- ・最寄り駅への利便性（手段、時間）
- ・公共公益施設の件数（施設名や内容）

- ・商業施設の件数（内容など）
- ・病院の件数（内容など）
- ④地域づくり活動に関して（\*丹波篠山市、丹波市および地区自治協議会への依頼）
  - ・各集落における地域再生大作戦による地域づくり活動の実施の有無と年度と概要
  - ・上記以外の各集落における地域づくり活動の概要（大学、企業などとの連携）
  - ・集落および校区における地域づくりの人材育成の状況（森大学の受講者数など）
- ⑤県民交流広場事業に関して（\*県民局、地区自治協議会への依頼）
  - ・平成 25～26 年頃までの初期の実施状況が記載された報告書を入手する。
  - ・各校区での、実施メニューと年数などを基に、分類整理する。
  - ・その後の、実施メニューの継続状況を、地区自治協議会にヒアリングする。
- ⑥丹波元気な地域づくり特別事業に関して（\*丹波市への依頼）
  - ・各校区における実施の有無と内容
- ⑦篠山市の郷づくり計画に関して（\*丹波篠山市への依頼）
  - ・各校区における実施の有無と内容
- ⑧校区境界、集落境界の図（\*丹波篠山市、丹波市への依頼）

### 3) 調査研究の報告

—報告書1「集落の再生・活性化方策の検討」参照—

## (2) 地域再生プロジェクトチーム会議

### 1) 会議の趣旨

- ・ 県民局の地域再生大作戦の事業解説とともに、各回テーマをもって、丹波篠山市および丹波市の地域づくり担当者および丹波の森研究所の研究者による意見交換を行った。
- ・ 今年度は2回開催した。(令和元年7月4日、令和2年2月13日)

### 2) 第1回地域再生プロジェクトチーム会議(令和元年7月4日)

今年度の調査研究テーマについて意見交換を行った。

#### ①今年度の調査研究テーマ

＜小規模集落の今後のあり方＞

- ・ 少子高齢化、人口減少社会、気候変動に伴う災害リスクの高まり、獣害
- ・ 地域運営(自治会活動)が困難、空き家や耕作放棄地の増加

＜視点＞

- ・ 住み続けられる集落(暮らし続けられる集落)とは
- ・ 丹波の森づくりの新たな取組み・・・集落に暮らし続ける
- ・ 中山間地域の、狭小域のエリアマネジメントの視点でこれからのあり方を考える
- ・ 「住み続けられる集落」と「住み続けられない集落」の区分?
- ・ 「住み続けられる集落」と人口減少の矛盾
- ・ 小規模集落(過疎化集落と高齢化集落・・・少人口集落)だから住み続けられない?

#### ②研究所の調査研究方針

3か年の継続調査研究とする。

##### 【1年目の調査:集落の現状の把握】

- 研究所のカルテ、関連資料による再整理
- 地区自治協議会への聞き取り
- 事例地区を対象とした変容プロセスの把握(\*地区の活動関係者へのヒアリング)

##### 【2年目の調査:集落住民の意識特性の把握】

- 集落における諸課題の発生状況の認識
- 集落および校区における地域づくりへのニーズ(将来像)の把握
- 集落の類型化

##### 【2年目後半:典型集落および集落群における課題の抽出と行動計画の立案】

- 典型集落における人口動向、地域づくり活動の経年変化など、および相互関係の把握
- 「住み続けられる集落」に向けた行動計画の立案

### 3) 第2回地域再生プロジェクトチーム会議（令和2年2月13日）

- 今年度の研究所の調査研究の「集落の再生・活性化方策の検討」の中間報告を踏まえ意見交換を行った。（以下、議事録より抜粋）

#### 【調査研究テーマの趣旨】

- 研究所としては、丹波地域の集落の活性化については、実は10年程前に、丹波篠山市、丹波市の小学校区をベースに、それぞれどういう集落があって、人口であったり地域の特性であったり、カルテという形で作っていました。10年余りが経ち、当時よりも集落の衰退が深刻になってきており、もう一度目の前をしっかりと見ながら、集落としての再生が本当に可能なのかどうか、集落の人が10年前よりも減っていて高齢化が進んでいる中で、小学校区ベースで、いわゆるまちづくり協議会といったものが成立している単位で、再生や活性化の可能性はないものか、その中で、例えば複数の集落が連携するといった形で、何らかの活動を支えていくことができないか、という問題意識のもとに行っている。
- ひとつは、全体が10年前と比べてどうなっているのかを整理する作業をするとともに、福住地区でももう少し深掘りができないか、特定の集落ないしは小学校区を詳しく見ていく中で、再生のヒントを探っていこうと。ここ10年の間にIターンの方々が増えてきている。多くが空き家になっていく中で、そういう場所を使っただきながら、あるいは場合によってはそこに住んでいただきながら、Iターン、つまり既にある程度課題の絞り込みをして、Iターンが起こる条件は何なのかということの作業を突っ込んで行ってみました。

<中間報告の内容については報告書1：「集落の再生・活性化方策の検討」参照>

#### 【意見交換】

- 最初の問題意識として、色んな活動が個々の集落単位で維持しきれなくなる場合、我々の仮設では小学校区なりで連携していく必要があるのではないかと考えている。
- 集落単体ではやっていられないから校区で考えるということがありますし、安全・安心についても、全体的に他のカテゴリーほど危機意識はなく、ある部分ではまだ集落でやりたいと思っている。
- 次のステップで、我々が何を考えなければならないかということ、仮に流れとして連携の方向、あるいは校区単位でやるとなった時に、校区の中でもすごく頑張っている集落とそうではないところが出てくる。そうすると、頑張っているところが核になり得るのか、それとも校区全体のことなど面倒臭くて見ていられないと思っているかも知れない。それを政策的にどう考えるべきかということもここでも考えることになる。
- 集落の実態をそれほど知っているわけではない。ここにいらっしゃる方は実態をご存じの

方なので、これはおかしいのではないかと、これはこういう意味なのではないですかということを、アドバイスいただくと次のステップに移りやすい。

#### <小学校の統合>

- 私は丹波市の東北部、市島にいますので、市島と山南は小学校自体が統合するかしないかのところに来ています。
- 気になっているのは、東芦田は小学校がなくなったエリアの近くだが、環境活動が小学校区単位あるいは連携活動、地元集落でという方向できていると思いますが、小学校が抜けていくときに小学校区スケールの環境活動、あるいは集落活動の環境保全活動が本当に一緒にできるのかということに危ぶんでいます。
- 現在は小学校がないがアンケートと取られたところは、あった頃の活動の中心だった方々が答えられているのではないかと。まだコアメンバーの方がリタイアしていないので、活動が維持できているの。
- その方がいらっしやなくなると、いわゆる人的拠点もなくなる。
- 小学校が統合されて、小学校に代わる拠点は何かあるのですか。
- 廃校拠点というところもありますし、今までととらえ方が変わりつつある途中だとも思います。これから統合する可能性のある地域はそういう情報をすごく気にしていますね。
- 小学校が地域コミュニティの核だという部分は多くある。地域活動とコミュニティ、小学校を中心にして繰り広げる活動があるが、統合したところ、核になる場所が残るところは良いけれども、なくなるところはどうなるのか。例えば篠山では後川、日置、雲部などがそうですけれども、一つの小学校になったが、雲部には小学校を核にしたコミュニティの場を置いていますし、後川にも同じように小学校跡地に置いています。そこでは地域コミュニティの核としての機能は維持できているのではないかと思います。
- 担い手構成が変わる可能性はあると思っています。ある程度担い手、リーダーが育っているかという条件が先行してあるかないかにかかなり左右されて、その芽を持っていないところは、その先に新たに興すということはすごく体力がいる、おそらく興らないだろう。
- 一番大きいのはPTA。小学校がなくなると、その地域だけのPTAはなくなる。それは子育て世代から見れば影響が出てくるかも知れない。
- 農家の祭礼としての一集落でやっているような伝統的な祭りは、家長しか参加しないというような祭りも結構多いので、そういうところの活動は集落の衰退とほぼイコール。
- 今回の分析では、伝統的な祭りと農産物のブランド化というのが同じ動きをしていて、不思議な感じはします。集落連携をしていこうとする時に、近くで同じ文化を共有しているといったことは重要な話。子供を集めるとか、PTAがサポーターになるとか、それは大きいですね。

- 先ほど PTA の話が出ましたが、例えばまち協単位で何かをしようとした時に、今までなら小学校の PTA に言えばよかったのが、どこに言いに行けばよいのか。

#### <小学校の跡地利用>

- 小学校の跡地利用については、丹波市と丹波篠山市では取り組み方が少し違います。丹波篠山市の学校は地域団体が、丹波市は行政と企業がバックアップしているケースが多い。
- 篠山市では地域に任せている。地域おこし協力隊も地域に派遣している。丹波市では企業を入れて、特任職員のような形で地域おこし協力隊を使っている。それからイノベーターズスクールの成果も出てきていて、大学や地域おこし協力隊が結構協力している祭りがあって、それが起業化とも結びついたりするので、ひょっとしたら祭りとは 6 次産業化の相関というのはそのあたりにあるのかも知れない。地域の活動では、人数が足りない祭りに若い人が来ると、割と巢立ってくれる。大学もそうで、神戸大学の農学部の人が多いので、そういう人が起業する。
- 篠山市では、学校が何に使われるかは行政が考えることではない、我々地域が考えるのだと。それに対して行政が支援する、という動きが強いですね。
- 両市民の意識にはそれほど差はない。ところが、青垣や神楽の場合は、確か神楽の会長からの要望書で、我々は高齢化していて管理しきれないという話が出ていたと思います。そ

#### <自治会の統合>

- 集落にはそれぞれ自治会があり、その自治会が疲弊している状況、祭りをするにも人がいない、役員のみなり手もない、統廃合を考えようという発想はある。ただ、氏子、檀家、、境界、財産などの課題はあるが、物理的に統合しないとやっていけない集落がある。
- 単純に統合ではなく、活動ごとに組めるかどうか、何でもかんでも一緒にというのはできないだろう。来年度に向けては、UJI ターンを呼べる集落とは何だろうか、と絞り込もうかと思っている。全体的に人が減っていく中では、外から来てもらいたい、それは個人であっても企業であっても。そういう人たちにとって魅力的な集落、校区って何だろうか。その中に生活というファクターも入ってくるし、環境や文化的な活動も入ってくる。その辺りを来年の切り口にしてみたいと思っています。

### (3) フェノロジーカレンダーの作成

- フェノロジーとは、生物季節学または花暦学という意味で、自然を中心とする年間暦のこと。一年間の自然と生活・活動の流れをつかむことは、時間軸を考慮して地域（施設）を立体的に理解し、資源の利活用のあり方を検討していく上で重要な手がかりとなる。
- 自然、動植物だけでなく歳時記の要素も取り込むことによって、地域資源の活用や地域づくりの材料としても役立つものである。丹波地域版、柏原版、小規模集落版、森公苑版など様々な想定が可能である。
- まず手始めとして、森公苑、ささやまの森公園、丹波並木道中央公園、年輪の里公園で実施する。多様な主体（職員、利用者、地域住民、子供、講座受講生など）の参加が望ましい。

#### 1) フェノロジーカレンダーづくりの手順

①制作グループをつくる

②情報を集める（前回のワークショップ）

仮テーマで分類……………A3 資料参照

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
自然を・	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
芸術を・	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……

③フェノロジーカレンダーのテーマを決める 12/6

- 現在の仮テーマ部分を、丹波の森公苑をイメージ、代表するようなテーマを設定する  
 (例) 情報の多い項目からテーマ設定  
 (例) 森公苑の特色ある活動からテーマ設定  
 里山に遊ぶ ⇒ 動植物 ⇒ 縄文塾、散策路、オオムラサキ・・・  
 (例) 森公苑とは・・・キャッチフレーズで考える

④フェノロジーカレンダーをデザインする

- テーマに沿って並び替え
- テーマに沿ってより情報を収集・ピックアップする



## 1-2 地域づくり支援事業

### (1) 地域づくりアドバイザーの派遣

#### 1) アドバイザー派遣重点地区の支援

- ・地域づくり重点地区への支援としてのアドバイザー派遣は、主に森研究所の研究員が地域づくり支援を行います。最近では、集落だけでなく、高校や小学校からも、現況把握や問題整理など、ワークショップによる課題解決のための支援要望があり、若い世代の地域づくりの関心を高める取り組みとしても考えています。

#### 2) アドバイザー派遣実績

##### ①丹波市遠坂地区（令和元年5月25日）

- ・アドバイザー業務（門上<sup>※</sup>研究員）

企業の森「遠坂アサヒの森」森林整備において、遊歩道の整備に係わる整備内容の確認を行うとともに、作業の注意事項、安全管理等を実施した。

##### ②丹波市山南町太田地区（令和元年8月23日、9月6日、10月10日）

- ・アドバイザー業務（片平研究員）

10月下旬より実施する慧日寺の屋根の葺き替えをワークショップ方式とし、ボランティア参加者を募るための企画、取りまとめを行った。

### (2) かいばら雛めぐり事業コーディネート業務

#### 1) アドバイザー業務（上岡研究員）

- ・かいばら雛めぐり実行委員会のコーディネーターとして、雛まつりを地域活性化にも役立てようと企画・提案を行った。
- ・また「たんば雛めぐり交流会」（丹波篠山市、丹波市、亀岡市の3市連携の雛まつり実行委員会）のコーディネーターとして支援した。

カテゴリー	キャッチフレーズ	紹介したい イチ押しスポット・お宝		
		篠山	柏原	亀岡
体感系	体験プログラム ・ インスタや 縁結び スポット	●アソビクワト-教室 ●和菓子づくりWS 	●張り子雛づくり ●アソビクワト-教室 ●子ども講れ着 	●こども着付け体験 ●縁かざり、膝下 人形教室 ●竹いぼ・ハルソート 
雛人形	昨年の古雛と 異なる視点での 味わい方 ・ 創作雛	●中西家の丸平人形 ●加茂人形 	●結婚の御所人形 ●つるし雛 ●木目込人形 (本庄系、丹波新築等) 	●資料館の参内人形 (推定精髄) ●創作雛 ●原産地の木目込み 

- ・3月の雛祭り関連イベントは、コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

#### 2) アドバイザー報告

（報告書2「かいばら雛めぐり事業コーディネート業務」参照）

### (3) 恐竜化石フィールドミュージアム推進事業の支援

#### 1) 事業目的

- 平成 26 年度「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム構想」の策定以降、構想実現に向けた様々な事業の実施により、地域資源の利活用や参加者拡大を目指してきた。これらの成果を活かし、平成 30 年度を野外博物館（フィールドミュージアム）のオープンの年と位置付け、県政 150 周年および同博物館オープンを記念した「たんば大地と暮らしの博覧会」が開催された。
- 本事業では、構想策定以降順次策定してきたコンテンツや成果等を常時発信し、博覧会終了後も取り組みが継続していくよう、今年度の事業を通してフィールドミュージアムの浸透強化を図ることを目的としている。

#### 2) 支援内容

- 丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進事業の一環として、事業の企画調整を森研究所の研究者が中心となって実施しています。
- 令和元年度のフィールドミュージアム推進事業は、主にツアーの企画・実施と PR 事業、川代トンネル開通に伴う旧道区間の公園化活用などが中心となった。
- そのため、個別ツアーの企画・地元対応・事業者調整・広報などを担当する事業ディレクター、および新規ツアーの企画や川代トンネルの旧道区間の整備についての提言や利活用ソフトプランの立案などを担当する総合プロデューサーを設置し、フィールドミュージアム事業の推進を図った。
- 2～3 月の川代ラインパークコンティニューイベントやサイクリングツアーなどフィールドミュージアム関連イベントは、コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

